

息子

観賞日 2021年3月8日

【概要】

制作 1991年 松竹 上映時間 121分

原作 椎名誠「倉庫作業員」

脚本 山田洋次、朝間義隆

監督 山田洋次

音楽 松村禎三

撮影 高羽哲夫

出演 三國連太郎（浅野昭男）、永瀬正敏（浅野哲夫）
和久井映見（川島征子）、浅田美代子（浅野とし子）
田中要三（浅野忠司）、原田美枝子（浅野怜子）



【あらすじ】

バブル期の東京。母親の一周忌で急遽、故郷岩手に戻る哲夫。久々に集まる浅野家の家族。長男忠司は成績もよく大学を出て大企業に勤め、結婚して二人の娘と千葉のマンションに住む。長女のとし子は結婚して実家の近くに住む。しかし、末っ子の哲夫は結婚もせず東京でフリーター生活が続ける。父親の昭男は身体に爆弾を抱えるものの、百姓仕事をしており田舎を離れる気はない。▼東京に戻った哲夫は鉄製品の運送会社で働き始め、得意先で出会う若い女性川島征子に一目惚れする。口を開いてくれない征子に苛立つ哲夫。征子が聾啞者であることを偶然聞いた哲夫は驚くが哲夫の気持ちは変わらない。▼熱海で開かれる戦友会に出席するために上京する昭男は長男の忠司一家のマンションに泊まる。忠司は昭男と一緒に住もうと話すが都会のマンション暮らしに馴染めない昭男は断る。その晩昭男は、気がかりな哲夫の許を訪れる。そこに征子がやって来る。哲夫は征子を昭男に紹介する。昭男は驚くが二人の様子を見て祝福する。心配事に目処がついた昭男は岩手に戻り、貧しくとも幸福だった若き日の家族の思い出を回想する。

名匠山田洋次が、地方に住む年老いた父親と都会に出た頼りない息子を軸に、家族の幸福を問う。

【解説】

■ポイント

●山田版東京物語

- ・共通点：地方に住む年老いた親と都会に住む子供。親の上京と子供の家への宿泊。
での良い子と心配な子

- ・相違点：本作では心配事に目処がつきハッピーエンド

●受賞（1992年第15回日本アカデミー最優秀賞）

作品賞、主演男優賞（三國連太郎）、助演男優賞（永瀬正敏）、助演女優賞（和久井映見）

■見どころ

●三國連太郎の演技

山田作品初登場であるがその存在感は抜群。

特に、哲夫の結婚が決まってからの演技は微笑ましい。

●噛みあわない親子の気持ち

時代の急速な変化、東京と地方の格差、世代間の意識のズレ
それでも変わらない家族愛